

副詞 *personnellement* の〈多変性〉について

Sur la variabilité de l'adverbe *personnellement*

宮腰 駿 (Shun MIYAKOSHI)

Cet article a pour but de considérer la variabilité de l'adverbe *personnellement*. Les travaux antérieurs se contentaient toujours de la classification systématique des emplois et le problème de variabilité était laissé pour compte. Afin de faire avancer l'étude sur *personnellement*, nous allons observer plusieurs occurrences de *personnellement* et tenter d'appréhender le système de la construction du sens des énoncés où cet adverbe est employé. En nous basant sur les observations, le concept de l'altérité sera suggéré pour sa description. Nous allons aussi considérer la relation entre cet adverbe et les verbes d'opinion.

キーワード：多変性 (variabilité), 副詞 (adverbe), 他者性 (altérité), 意見動詞 (verbes d'opinion)

1. はじめに

本稿は副詞 *personnellement* (以下、*per* と略す¹) の〈多変性〉について考察することを目的とする。ここでいう〈多変性〉とはある言語形式が文脈とインタラクティブにかかわる中で多様な用法を持つことを指している。副詞研究の場合は、特に修飾対象との関係でどのように意味構築が行われるのかということが焦点になり、この理由で多変性の研究を欠かすことはできない。

まず、*per* に関する先行研究の現状に触れることにしよう。これまでこの副詞は構文論的な分類研究 (Molinier et Levrier 2000, Molinier 2003) の対象であると同時に機能的な観点からの記述 (Hermoso 2009) の対象となってきた。前者の Molinier (2003) は副詞分類の様々なテスト²を使用して、*per* の用法を(1a)「文体離接詞 (disjonctif de style)」、(1b)「動詞様態副詞 (adverbe de manière verbal)」、(1c)「焦点化詞 (focalisateur)」の3つに区別している。

- (1) a. *Personnellement*, je suis inquiet. (ibidem, p.361)
個人的に私は不安だ。
- b. Max joue très *personnellement* l'étude en mi bémol majeur. (ibidem, p.367)
マックスは変ホ長調のエチュードをととても独創的にひく。
- c. Max *personnellement* a accueilli Luc. (ibidem, p.368)
マックス個人がリュックを迎えた。

¹ 例文中の *personnellement* および注目に値する形式については斜字ボールド体で示す。

² テストを用いた副詞分類研究については Borillo (1976), Mørdrup (1976), Schlyter (1977), Molinier (1990), Nølke (1993), 谷口 (1999), Molinier et Levrier (2000), 青井 (2005) 等を参照。

談話における機能に関する研究については、例えば Hermoso (2009) は *franchement* と *per* を比較している。そして、文を超えた入射をこの 2 つの副詞が持つ際には、*franchement* は(2a)に対するパラフレーズ(2b)のような *dire* (*je te dis que...*) に対する修飾、すなわち「発話行為入射 (*incidence énonciative*)」を持つものに対して、*per* は(2c)に対するパラフレーズ(2d)のような *penser* (*je pense que...*) に対する修飾、すなわち「モーダル入射 (*incidence modale*)」を持つことを主張している。この研究により Molinier et Levrier (2000) ではともに文体離接詞に含められるものとして記述されていたこの 2 つの副詞が、発話の階層的な構成において異なる機能を持つことが明らかになった。

- (2) a. ***Franchement***, ça ressemble à rien. (ibidem, p.29)
 率直に言って、これは何とも言えないほどひどい
- b. Je te dis ***franchement*** X (X = ça ressemble à rien). (idem)
 私は君に X と言う (X=これは何とも言えないほどひどい)
- c. Je pense ***personnellement*** qu'il n'existe aucune solution satisfaisante à ce problème. (idem)
 私は個人的にはこの問題の十分な解決策は存在していないと思う。
- d. Je dis que je pense ***personnellement*** qu'il n'existe aucune solution satisfaisante à ce problème. (ibidem, p.30)
 この問題の十分な解決策は存在していないと考えていると私は君に言う。

このように、副詞の基礎的な分類研究とその発展としてより文全体ないし発話行為への修飾関係に着目した研究により *per* に関する記述は蓄積されてきた。こうした先行研究により *per* に関する基礎的な記述は十分になされてきたといえる。しかし、先行研究の現状には大きく 2 つの問題点がみとめられる。

まず、先行研究では *per* の持つ意味や機能に関する記述が十分になされているとは言えない。たしかに、Molinier の依拠する構文論的な分類の枠組みからすればこうした意味論・語用論に関わる問題は背景的にならざるを得ない部分もある。ただ、*per* を言語学的に記述するという観点からみれば、こうした不足は補われる必要がある。また、Hermoso はより意味や機能に着目することを試みてはいるが、実際の文脈や状況をふまえた分析が行われているわけではなく、むしろ 1 文レベルの分析にとどまっている。「ポリフォニー (*polyphonie*)」および「論証効力 (*force argumentative*)」の問題がこの研究では盛んに論じられているが、この問題を扱うのならば、なおさら前後の文脈をふまえた分析が求められる。

また、どちらの研究でも<分類>という問題がもっとも際立って論じられているといえる。Molinier は-ment 型副詞の分類体系全体のなかでの *per* の位置づけについて専心していた。また、Hermoso は入射という観点から *franchement* との比較に基づく分類を行っている。このような分類

の観点はたしかに言語研究において方法論上必ず求められることである。しかし、こうした研究手法は「同一形式が様々な用法を持つ」という観察結果を十分に検討することを妨げる可能性がある。実際、例えば *Hermoso* は文内入射とより上位の入射の場合を分けて論じてはいるが、こうした分類が念頭に置かれているため、*franchement* あるいは *per* の各用法が持つ共通性をとらえようとする視点が抜け落ちている。*Molinier* は論文のタイトルからも示唆されるように *singularité* というタームによって *per* の共通性をとらえようとしていた。しかし、このタームについての検討が十分ではない。このタームは量的な「単一性」という概念と質的な「特異性」という概念が混ざり合ったものとしてとらえられる。たしかに、このような曖昧性を意図的に意識して、用法全体の共通性をとらえようとしているという見方もできる。しかし、こうした意図があるならばそれは明示される必要がある。

こうした先行研究における問題をふまえて、本稿では *per* が持つ様々な意味・機能を記述し、この副詞が周辺の文脈との関係の中で用法の多変性を作り出すメカニズムの解明を目指す。なお本稿では究極的な *per* の意味図式を提出することではなく、まずは記述的に *per* の多様な用例を観察することに重きを置く。以下ではまず 2 章において用例の観察を行う。

2. 副詞 *personnellement* の基礎的な観察

本章では構文内における位置に着目しながら *per* の用例観察を行い、この形式が実際の文脈の中で持つ意味・機能を明らかにする³。なお本稿では便宜的に各用例における *per* の生起位置について大まかに、主として文頭に生起する<文頭グループ>とそれ以外の<構成素グループ>に分けて観察を進める。特に後者についてはさらなる分類も可能であると考えられるが、本稿が主としてこの副詞の意味機能に着目するという理由から、おおまかな位置の分類に基づいて用例の観察を進める。

2.1. 文頭グループの観察

まず、文頭グループの観察を行う。このグループは大まかに言えば、*Molinier* (2003) のいう文体離接詞の用法に対応する。文頭に *per* が置かれている場合には、基本的には文全体に対する修飾が行われると考えられる。また、談話のレベルでいえば、文頭位置の *per* を検討する際には文脈において把握できる対比関係をとらえることが欠かせない。

まず観察の手始めに辞書 *Trésor de la Langue Française informatisé* (以下、TLFi と略す) の *per* の項目における文頭グループに属す用例とその語釈を検討する。(3)が用例及び語釈の引用である。

(3) TLFi の記述 Quant à (+ pronom pers.). (人称代名詞) については

Personnellement je trouve à ce quartier de New-York moins de caractère qu'aux quartiers chinois

³ なお本稿では「非人称」に対する「人称」の意味を表す *per* を分析の対象から除く。この種の用法は言語記述というメタレベルの問題にかかわるものと考えられ、本稿で扱う用例とは大きく性質を異にするものである。

de Los Angeles et de San Francisco.

個人的に、私はこのニューヨークの一角はロサンゼルスとサンフランシスコの中国街よりも特徴がないと思う。

この語釈では、per が「何について話すのか？」という形でのテーマの表示に関与していることが際立たせられているととらえられる。つまり、用例に即していえば「私についていえば」という形で per は文頭位置において機能していると考えられている。ただ、この語釈ではあまりにも per の記述としては漠然としているといわざるを得ない。「私について」というテーマの表示が持つ機能には様々な場合が想定可能である。例えば、この用例でいえば、ここではむしろ後続する文であらわされる意見が立脚する観点を per が表示していると考えることができる。では実際の用例では文頭位置の per の意味はどのような広がりを持っているのだろうか。

まず、用例を観察すると、たしかに(4)のように意見を表示する際に依拠する思考主体の観点が per により表される場合がある。(4)では話者の意見が後続する文において語られている。こういった例には、ひとまず「個人的には」といった訳語をあてることができると考えられる。

- (4) a. *Personnellement*, je pense qu'il a tort. (Molinier 2009, p.20)

個人的に、私は彼は間違っていると思う。

- b. Moi, Teddy Riner, je me suis fait vacciner dès que j'ai pu. Parce que je voulais me protéger, parce que je voulais protéger mes proches et les plus fragiles, parce que je voulais préparer les Jeux de Tokyo sereinement. Parce que, *personnellement*, je pense que c'est la solution pour régler le problème.⁴

私、Teddy Riner は可能になってからすぐにワクチン接種を受けました。自分のことや近親者、最も脆弱な人々をまもりたかったですし、東京オリンピックにむけて心静かに準備をしたかったのです。私個人はこれが問題を解決するための手段だと思っていますし。

- c. *Personnellement*, je ne suis pas d'accord avec cette affirmation.⁵

個人的には、私はこの主張に賛成していない。

- d. De nouveau Lambert dévisagea Henri avec méfiance :

-*Personnellement*, tu es toujours décidé à parler ?

-*Personnellement*, oui.

(Les Mandarins)

ランベールは、またアンリを疑わしそうに凝視した。

「あなた個人としては、相変らず発表する覚悟でしょうね」

「ぼく個人としては、そうだ」

(朝吹訳)

⁴<https://www.leparisien.fr/sports/polemiques-sur-le-vaccin-et-les-medailles-en-2024-teddy-riner-dit-non-a-linstrument-alisation-des-sportifs-17-09-2021-TJYLMJTZL5D27G7FMHXBVB64Z4.php> (本稿における URL の最終閲覧日はすべて 2022/12/17 である)

⁵<https://www.linternaute.fr/dictionnaire/fr/definition/personnellement/>

(4a)では「彼は間違っている」という意見を表明する際に、話者という個人の観点にこの意見が立脚していることが *per* により表されている。このように *per* が個人的な観点を表示することによって、異なる意見の存在可能性は残されることになる。例えば、(4b)では話者がワクチン接種を行った理由として、話者の意見が表明されている。ここでも「ワクチンが問題を解決する手段になる」という見解はあくまで話者個人のものであることが *per* により示されている。たしかに、ワクチンについては様々な見解があると考えられるが、ここではそうしたさまざまな意見が存在することが言語形式によっても表されている。また(4c)の例では賛成と反対という 2 つの意見がある中で、話者の個人的な観点において反対論が提示されている。*per* を伴って反対論を提示することで、賛成論が存在する可能性が明示的に残されることになる。さらに(4d)では、文脈上、収容所に関する情報を公表するかどうか議論されている。ここで 2 つ目の *per* に注目すると、ここでは「公表するかどうか」という問いについて、個人の観点から *oui* という返答がなされている。ここでは問いかけてられている状況からして *non* という返答もあり得るが、この異なる観点に依拠した異論の存在が *per* により示されていると考えられる。

しかし、用例の観察を続けると、個人的な観点的表示のみに *per* が関わっているわけではないことが明らかになる。例えば、(5)の例は市長がインタビューを受けているものである。

(5) *-Personnellement*, professionnellement et en tant que candidate, comment avez-vous vécu cette période de confinement ?

-Personnellement, j'ai vécu ce confinement comme un temps offert pour me poser, prendre des nouvelles de mes proches et faire une partie de ce que j'avais toujours remis au lendemain.

En tant que maire de Pontivy, j'ai pris pleinement la mesure de cette crise sanitaire en déclenchant dès le 2 mars 2020 le Plan communal de sauvegarde et en mettant tout en œuvre pour préserver la population, ainsi que les agents de la Ville et de la communauté de communes de ce virus.⁶

「個人的に、職業的に、そして候補者としてあなたはどのようにこの自宅隔離の期間を過ごしました？」

「個人的には、私はこの自宅隔離の期間を自分に与えられ、近親者とやり取りをしたり、いつも翌日に持ち越してきたことの一部を行うための時間として過ごしました。

Pontivy の市長としては、2020 年 3 月 2 日から市の感染対策計画を実施し、このウイルスから市民と、市および地域コミュニティの職員を守るためのあらゆる策を講じ、十分にこの公衆衛生上の危機に対する対応を取りました。」

この例は、質問および回答において、*per* が公的な立場に対する私的な立場を表示していると考えられる。まず、質問において、当該の人物が持つ複数の社会的な立場が並べられて、そのそ

⁶https://actu.fr/bretagne/pontivy_56178/municipales-2020-pontivy-une-campagne-de-proximite-pour-christine-le-strat_33898537.html

れぞれにおいてどのように隔離期間を過ごしていたのかが問われている。そして、回答において *per* は後続する *En tant que maire de Pontivy* とコントラストをなしている。この例では何か意見が表示されているというよりもむしろ、立場に応じた隔離期間の過ごし方が問題となっている。そして意味的には、*vivre* という動詞にこの *per* はかかっていると考えることができる。ただ、ここでは<公私>というテーマのコントラストが *per* および *En tant que maire de Pontivy* が文頭に置かれていることで際立っていると考えられる。つまり、この例では *per* が文頭位置に置かれていることで談話上の立場の対比関係が際立っている。

2.2. 構成素グループの観察

次に、構成素グループの観察を行う。このグループは Molinier (2003) のいう動詞様態副詞および焦点化詞の用法に対応する類型である。前述の文頭グループとは異なり、このグループの *per* は述定関係<Sujet-Prédicat>における主体と述語に対する修飾限定の機能を基本的に有していると考えられる。

まず TLFi の *per* の項目において構成素グループに対応している用例とその語釈に着目する。ここでは大きく3つの意味が認められている。1つ目は(6)のように動詞様態副詞としての機能を際立たせている語釈が付されているパターンである。ただ、このラベルのもとに置かれた実際の用例を見ると、Molinier が動詞様態副詞と呼んでいたものとは性質が大きく異なることがわかる。Molinier では実際に行為の行われる様子が独特であることが重視されていた。一方、例えば(6a)では人間関係の個人性が *per* を通じてあらわされていると考えられる。また、(6b)では敵意の直接性が示されており、人間関係というよりも、むしろ敵意がどのように ils ないしは se で指示された対象に関わるのかが *per* を通じてあらわされている。このように TLFi では「様態」という1つのラベルのもとにいくつかのタイプの *per* の用例が集められている。

(6) TLFi の記述 D'une manière personnelle. 個人的な様態で

- a. Françoise à la cuisine parlait volontiers de saint Louis comme si elle l'avait **personnellement** connu.

台所のフランソワーズはすすんで聖ルイについて話し、それはあたかも彼女が彼を個人的に知っているかのようにだった。

- b. Ils ne veulent pas se désigner **personnellement** à l'hostilité d'un syndicat aussi formidable.

彼らはかくも巨大な組合から個人的に敵意を向けられることをのぞんでいない。

2つ目は先行研究の記述において焦点化詞として記述されていたタイプに対応すると考えられる場合である。Hermoso (2009, p.27) も文内入射の *per* について *lui-même, en personne* という語釈を付していた。

(7) TLFi の記述 *Soi-même, en personne*. 自分自身で、自分で

- a. Comme nous n'avons pas assisté *personnellement* à la création du monde, l'observation directe ne peut pas s'y appliquer, et nous ne pouvons nous en former une idée qu'en ayant recours à la méthode d'induction.

わたしたちは世界の創造に自ら立ち会っていなかったのだから、それを直接に観察することはできない。そして私たちは推論法に頼ることによってのみ、それについての考えを抱くことができる。

- b. Le rapporteur général a eu l'occasion d'indiquer que l'assemblée pouvait toujours faire jouer la responsabilité individuelle d'un ministre en votant à son encontre une motion de blâme qui le vise *personnellement*.

会議は個人を直接に狙った叱責動議への投票を通じて、いつも大臣の個人的な責任を問題にすることができたということを明らかにする機会が統括報告者にはあった。

- c. La reine Victoria s'intéressa *personnellement* à l'orfèvrerie, en tant que souveraine d'une nation où cet art était particulièrement à l'honneur.

ヴィクトリア女王は自ら金細工に興味を持っていた。それはこの芸術にとりわけ名誉があたえられていた国家の君主としてである。

まず(7a)の *per* は世界の創造という事態に対して行為主体がどのように関与しているのかを述べている。そして、その関与の在り方が直接的、つまりその状況に実際に居合わせていることが示されている。後続する *l'observation directe* という表現から考えてもこうした解釈になると考えられる。一方、(7b)は(6b)の類例であると考えられる。どちらの例でも *se designer, viser* といった行為の指向性を表す動詞の横に *per* は置かれている。(7b)の *per* は *le* で指示されるほかならぬ大臣その人が叱責動議の対象となることを表している。最後に(7c)であるが、ここでは *per* を通じて、女王が金細工に対して個人的に興味を持っていたことが表されている。ここでは後続する *en tant que* 以下との関係性を考える必要がある。ここでは個人としても、国家元首としても、金細工に対して興味を持っていることが *per* を通じて示されており、結果的に女王その人が大変に金細工に興味を持っていたことが表されている。パーソナルな個人としての立場でも、国家元首という公的な立場においても、興味深い対象として女王が金細工をとらえていたことにより、こうした強意の効果が得られていると考えられる。

3つ目は前述の文頭グループにおける用例と同じ語釈が付されている場合である。この例の *per* は思考主体の観点を表していると考えられる。ここでは「軍隊」というテーマに関する考え方が問題になっている。そして、「秩序の維持」という視座の下でこのテーマをとらえることについて、話者個人は嫌っているという意見が示されている。ここでは *per* を通じて、異論が存在することが言語的に示されていると考えられる。

- (8) TLFi の記述 Quant à (+ pronom pers.) (人称代名詞) に関しては

Je répugne *personnellement* à considérer les forces armées sous l'angle du maintien de l'ordre, conception qui fut fort à la mode il y a quelques années : il existe en France d'importantes forces de police dont c'est le rôle.

わたしは個人的には軍隊について秩序の維持という数年前に広く広まった概念の視座で考えることを嫌っている：フランスにはこの役割を担う警察の大きな武力がある。

ここまで TLFi の記述を検討した。この検討から構成素グループの *per* が複数の用法を持つことが示唆された。ただ、この辞書記述においては多変性を十分に弁別しながら把握することはできていない。以下ではこうした辞書記述の問題点をふまえつつ、*per* の用例観察を行う。

まず、文頭グループにおける用例と同様に構成素グループの *per* も観点の表示に使用されることがある。例えば、(9a)では動物愛護という話題が取り上げられている。そして、話者は「この種の狩りの仕方を禁止する」ということについて賛成論の立場に立っていることが表されている。また、(9b)ではフランス人の信仰が問題になっている。ここでは神の信仰というテーマについて調査回答者の各々が個人的な観点において不信仰の立場をとっていることが表されている。この種の例では意見や信条を表す述語を *per* は修飾限定し、述語の意味内容に応じて、結果的に観点の意味が表されていると考えられる。

- (9) a. « On a tous été frappés récemment par ces images du cerf épuisé, rappelle-t-elle, je suis *personnellement* pour interdire cette technique de chasse. »⁷

彼女は回想する「私たちはみな、このみるも無残に殺されたシカの写真に最近ショックを受けました。私は個人的にはこの狩りの方法を禁止することに賛成しています。」

- b. 51% des Français disent ne pas croire *personnellement* en Dieu, un pourcentage en forte augmentation.⁸

51%のフランス人は個人的には紙を信じていないと述べている。このパーセンテージはかなりの上昇傾向にある。

また、構成素グループの *per* も立場の表示を行うことがある。例えば、(10)では共和党の政治家 Aurélien Pradié が健康パスポートの延長に対して反対の意見を持っていることが示されている。この例の *per* も一見すると être défavorable という述語との共起から個人的な観点を示していると考えられる。ただ、ここではむしろ立場が問題になっている。そのことは挿入されている je n'engage pas ma famille politique から明らかである。すなわち、「健康パスポートの延長に反対する」

⁷<https://www.lefigaro.fr/politique/yaël-braun-pivet-personnellement-pour-l-interdiction-de-la-chasse-a-courre-20201007>

⁸<https://www.ouest-france.fr/medias/ouest-france/courrier-des-lecteurs/la-foi-se-perd-pourquoi-2b0e34c7-ec6c-4442-a846-66bec42c4fc9>

という意見が所属している党全体の意見ではなく、あくまでのこの政治家個人の意見であることが *per* により表されている。いわばこの例は観点と立場の橋渡しの用例であると考えられる。

- (10) « Je suis *personnellement* - je n'engage pas ma famille politique - défavorable à la prolongation du passe sanitaire sur une période aussi longue »⁹

「これは私の政党の意見ではないが、私は個人的にはかくも長い期間の健康パスポートの延長には反対である。」

一方、(11)の例ではよりはっきりとプライベートな立場の表示のために *per* は使用されていると考えることができる。この用例は俳優 Jean-Paul Belmondo の国葬に関する記事からの引用である。ここでは Jack という人物が Belmondo と個人的に知り合いであったことが示されている。つまり、この *per* はこの 2 人の人物の間にプライベートな関係が存在していたことを示している。実際、後続する文脈では Jack と Belmondo が一緒にサイクリングするような関係であったことが示されており、*per* がプライベートな関係性を示しているという解釈は安定している。この例では *per* が修飾する述語が表す行為に対して行為主体がどのような立場で関係づけられているのかが問題となっている。したがって、この種の立場を表す *per* については行為主体と行為の関係性をとらえることが必要になる。

- (11) « Il méritait bien une cérémonie. » Jack est lui aussi fier de voir celui qu'il a connu *personnellement* honoré par la Nation. Le septuagénaire à l'allure distinguée rappelle étrangement Bébel, et a longtemps été un compagnon de route de l'acteur : « Dans les années 80, j'allais régulièrement faire du vélo avec lui. Il y avait Michel Drucker parfois. C'était un personnage, Bébel, et quel sportif ! Il descendait du vélo, il continuait à faire des pompes, il courait... On rigolait énormément. »¹⁰

「彼は式典に値する人物だったよ」 Jack も個人的につきあいがあった人物が国によってたたえられているのを見るのが誇らしかった。この上品な雰囲気 of 70 代の人物は Bébel (Belmondo の愛称) のことを奇妙に思い出していた。彼は長い間この俳優の旅仲間であった。「80 年代には、定期的に彼とサイクリングに行ったよ。Michel Drucker も時々いたな。Bébel はひとかどの人物で、とてもスポーツマンだったよ！彼は自転車から降りて、続けて腕立て伏せをして、走って... 私たちは猛烈に笑ったもんだよ。」

ここまでの用例は文頭グループと同じように思考主体の観点と行為主体の立場という考えからとらえられるものであった。ただ、構成素グループの *per* を考察する際には、この 2 つの視座だ

⁹<https://www.lefigaro.fr/flash-actu/passe-sanitaire-pradie-lr-s-oppose-a-une-prolongation-au-dela-du-15-novembre-20211014>

¹⁰<https://www.lefigaro.fr/cinema/c-est-l-image-de-la-france-qui-allait-bien-qui-disparait-le-public-rend-une-hommage-a-belmondo-20210909>

けでは十分ではない。先行研究でいうところの焦点化詞としての用法にも注目する必要がある。例えば、エルミタージュ美術館が芸術作品の電子取引に参入することを報じる記事からの引用である(12)では、館長自らが署名をおこなうことが *per* を通じてあらわされている。ここでは観点や立場というよりも、行為にある主体が直接的に当事者としてかかわることが問題になっている。実際、後続する文脈では、館長自らの手続きによりトークン化されたヴァージョンを「唯一」のものにすることが語られ、また *souligner* という動詞が用いられていることから、この行為に館長その人が関わることの重要性が示されている。

- (12) Les versions « tokenisées » sont signées *personnellement* par le directeur de l'Ermitage, Mikhail Piotrovski, pour les rendre uniques, a souligné le musée.¹¹

「トークン化」されたヴァージョンはそれを唯一のものとするために、エルミタージュ美術館の館長である Mikhail Piotrovski 自らによって署名されます。このように美術館は強調した。

また、上述の例のような行為主体の当事者性のみならず、行為の対象となる人物を当事者として表示する場合もある。例えば、(13a)は Google のアカウントサービスに関する説明である。ここでの *per* は *identifier* という動詞の直接目的語 *vous* をとりたてている。そして、契約の情報を顧客個人が特定されない範囲で共有できることが示されている。結論としては、ここでは個人情報保護されるということが *per* を通じて表されている。また、キャロルからオルガへ送られた手紙からの引用である(13b)では、*per* は *toi* をとりたてている。この例で興味深いのは、すでに生起している *à toi* が再度生起し、その *toi* を *per* がとりたてている点である。ここでは *penser* という動詞の示す事行の対象がほかならぬ *toi* であることが強調されていると考えられる。

- (13) a. Google peut partager des données d'abonnement qui ne vous identifient pas *personnellement* avec des développeurs pour les aider à proposer des abonnements.¹²

Google はソフト開発者が定期購入を提案することを助けるために、あなた個人を特定しない形で定期購入のデータを彼らに共有できます。

- b. Paris, le 15 juin

Olga, comme ces trucs minables doivent te paraître stupides, vus de Pékin ! Je suis si confuse de t'assommer avec mon roman-photo, alors que tu as tant de nouvelles choses à explorer, mais ne crois pas que je ne pense pas à toi – à toi *personnellement*.

(Les Samourais)

パリ、六月十五日

オルガ、こういった惨めな話は、北京から見れば、どんなにか馬鹿らしく思え

¹¹<https://www.lefigaro.fr/flash-eco/russie-le-musee-de-l-ermitage-se-lance-dans-la-vente-de-nft-20210831>

¹²<https://support.google.com/googleplay/answer/2476088?hl=fr-CA&co=GENIE.Platform%3DAndroid>

るでしょうね！あなたには探索すべき新しいことが山とあるというのに、わたしの大衆小説であなたをうんざりさせるのが、とつても申しわけないわ。でも、わたしがあなたのことを—あなた個人のことを—思っていないなんて、考えないでね。

(西川訳)

さらに、やや派生的な例ではあるが、*per* を通じてあらわされる当事者性が〈秘匿性〉につながっていると考えられる用例もある。小説 *Les Mandarins* からの引用である(14)について検討しよう。この場面はソ連の収容所の実態を伝える情報が入り、それがデマかどうか確かめるために情報提供者としてスクリヤシンの知人であるゲオルギーと会談の場が設けられたというものである。会談が終わり、スクリヤシンは念をおすようにこの会談のことを秘密にすることを求めている。ここで *per* は動詞 *rencontrer* および直接目的語 *vous* と関わっている。結果的にはこれがただの会談ではなく、秘密会談であることが *per* を通じてここでは表されている。ここではほかならぬ *vous* で指示される人々に個人的にあうことをゲオルギーは求めており、他者をシャットアウトして会談を行うことで、この会談を秘密のものにしようとしていたと考えられる。

- (14) Scriassine se leva, George aussi : « Je vous demande à tous le secret le plus absolu sur la conversation que nous venons d'avoir. George a tenu à vous rencontrer *personnellement* : mais vous imaginez quels dangers le menacent dans une ville comme Paris. » (Les Mandarins)
- スクリヤシンが立ち上がり、ゲオルギーも立ち上がった。「我々の今おこなった談話について絶対に秘密を守って頂きたい。ゲオルギーは皆さんと個人的に会合することを切望したのです。しかしパリのような都会において彼がどんな危険に迫られているか、お判りだと思います」

(朝吹訳)

ここまでの焦点化詞用法の *per* についても述定関係における主体と述語の関係性が問題となる。そして、この種の用法を解釈する際には、*per* がとりたてる表現のみならず、その表現が位置付けられている述定関係全体を把握することが求められる。

最後に行為の様態を示すタイプの *per* について検討する。Molinier (2003) による記述をふまえると、構成素グループの *per* は動詞様態副詞としての用法を持つことがある。例えば、(15)では述語により表される演奏という行為のあり様が Max という個人に独自のものであることが示されている。ただ、この種の解釈を持つ用例を筆者の調査においては見出すことはできておらず、用法のステータスに関してさらなる議論が必要である。しかし、網羅的な観察を行うためにひとまずこの種の用例についても本稿の分析に取り入れる。この用法の *per* では特に *per* が修飾する述語が問題になる。ただ、この場合でも述語への修飾だけでなく、その述語と関係づけられている行為主体をとらえることも必要になる。このように行為主体を考慮することで、例えば(15)でいえば、Max の独自性が際立たせられることになる。

(15) Max joue très *personnellement* l'étude en mi bémol majeur.

(=1b)

ここまでの観察をまとめると、暫定的に *per* には以下の表のような意味機能のヴァリエーションがあると考えられる。この表から読み取れるように、文頭グループと構成素グループにおいて重なる解釈もあるが、構成素グループにおいてのみ観察できる解釈も存在している。また、位置に応じた修飾関係について議論する必要性が観察を通じて浮かび上がった。文頭位置では、文全体に対する修飾が問題となると同時に、談話上での対比関係をとらえることも必要になる。また、構成素グループの *per* では述定関係における述語だけではなく、主体についても同等に考慮することが基本的には必要である。このような主体を含めた把握によって、「誰の観点／立場／当事者性／独自性」なのかという点が明らかになる。

図：構文上の生起位置と意味機能の関係

文頭グループ	構成素グループ
思考主体の観点の表示	
行為主体の立場の表示	
	行為主体の当事者性の表示
	行為主体の独自性の表示

2.3. 意見動詞と *personnellement* の関係性に関する考察

前節まで生起位置に関して 2 つのグループを分けたうえで、それぞれのグループの *per* が持つ意味について検討した。この検討によりどちらのグループにおいても観点の表示を *per* が行うことが明らかになった。すでに用例から示唆されるように、この種の解釈を示す場合の *per* はまず第一に意見を表示するタイプの述語と関係づけて論じる必要がある。実際、先行研究において、しばしば *per* は意見動詞 (*verbes d'opinion*)¹³ との共起関係が注目されてきた (Schlyter 1977, Hermoso 2009, Molinier 2009)。ここでは文頭位置に置かれた *per* と意見動詞の関係性について考察する。

ここで分析にあたって参照するのは Gosselin (2015) による意見動詞の体系的な研究である。Gosselin は *je crois / pense / trouve / considère / estime que p.* という 5 つの意見動詞と *que* 節内の命題が持つモダリティの関係を論じている。この研究では、*que* 節内のモダリティは大きく「真理モダリティ／認識モダリティ／評価モダリティ／価値モダリティ」の 4 つに分類されている。以下では、この研究に基づき、意見動詞と *per* の共起関係、ならびに *que* 節内のモダリティと *per* の共起関係という点から簡単な観察を行う。

まず、意見動詞との共起関係について、Gosselin を参考にして、5 つの意見動詞すべてと共起する評価モダリティを *que* 節内の命題とし、意見動詞をそれぞれ変えて *per* と共起させた(16)の例文

¹³ Ducrot (1980) および Tuchais (2012) を参照。

を作成し、インフォーマント¹⁴に提示した。すると、5つの動詞はすべて *per* と基本的には問題なく共起することがわかった¹⁵。この観察はどのような意見動詞とも共起できる *per* の特徴を表していると考えられる。

- (16) a. ***Personnellement***, je pense que ce pain est bon.
個人的に、私はこのパンがおいしいと思う。
- b. ?***Personnellement***, je crois que ce pain est bon.
個人的に、私はこのパンがおいしいと信じる。
- c. ?***Personnellement***, j'estime que ce pain est bon.
個人的に、私はこのパンがおいしいと見積もる。
- d. ***Personnellement***, je considère que ce pain est bon.
個人的に、私はこのパンがおいしいと考える。
- e. ***Personnellement***, je trouve que ce pain est bon.
個人的に、私はこのパンがおいしいことを見出す。

次に *que* 節内のモダリティに焦点を当てた観察を行う。ここでも Gosselin の研究を参考にして、4種すべてのモダリティと共起できる動詞 *penser* を用いて、モダリティをそれぞれ変えた例文(17)を作成した。この調査でもインフォーマントはどの例についても自然であるとの判断を下した。この結果から *per* はどのようなタイプのモダリティとも共起することが示唆される。

- (17) a. ***Personnellement***, je pense que cette table est rectangulaire.
個人的に、私はこのテーブルが長方形であると思う。
- b. ***Personnellement***, je pense que ce champ est assez vaste.
個人的に、私はこの畑は十分に広いと思う。
- c. ***Personnellement***, je pense que ce pain est bon.
個人的に、私はこのパンがおいしいと思う。
- d. ***Personnellement***, je pense que cet homme est malhonnête.
個人的に、私はこの人は不誠実であると思う。

この調査はたしかに方法論的には不完全ではある。ただ、この調査から *per* が意見動詞と *que* 節内のモダリティに対して、許容度が高い表現であることが示唆された。つまり、どのようなタイプの判断であっても、*per* はその判断が依拠する観点を表示することのできる副詞であると考

¹⁴ 本稿におけるインフォーマント調査では3名の母語話者に協力を依頼した。

¹⁵ なお、(16b)および(16c)についてはそれぞれ1名ずつやや不自然という評価を下すインフォーマントがいた。ただ、これは *per* のみならず、*que* 節内のモダリティと意見動詞の関係性にも関わる問題であるため、本稿ではこの容認度についてこれ以上深く議論はしない。

えることができる。また、意見動詞に対して基本的に選択制限がないということであれば、*per* は意見そのものを表すわけではなく、意見提示の状況に対して *penser* や *croire* といった意見動詞とは異なる形でかかわっていると考えることが妥当であろう。実際、Borillo (2004, p.37) は *selon moi, à mon avis* 等を記述する中で、この種の「強い意見副詞 (adverbes d'opinion forte)」が *je pense* 等と共起すると冗長になるのに対して、*pour ma part* や *per* といった「談話界の副詞 (adverbes d'univers de discours)」はこの種の述語と問題なく共起することを指摘している。つまり、*per* そのものは意見の意味を含みこんでいるのではなく、この副詞は観点を示すことによって、意見提示の状況に寄与していると考えられる必要がある。

ただし、*per* と意見の関係についてはさらにいくつか考えるべき問題がある。まずは意見動詞ではない述語と共起する場合でも、*per* が観点を示していると考えられる事例(18)が観察できる。

- (18) a. La circonlocution (du latin, circumlocutio littéralement circuit de paroles) consiste à remplacer par plusieurs mots ou plusieurs phrases ce qui pourrait être dit en un mot ou en une phrase courte. C'est donc une périphrase, mais sa spécificité est qu'elle sert essentiellement à éviter d'exprimer franchement ce que l'on pense. **Personnellement**, je la qualifierais d'hypocrite.¹⁶

circonlocution (ラテン語の *circumlocutio*, 字義通りいえば「ことばの曲折」)とは一語あるいは短文で言えることをいくつかの語またはいくつかの文で置き換えることである。したがってこれは迂言法であるが、その特性はこれが考えていることをはっきりと表現することを避けるためにもつばら役立つことである。個人的には、私はこれを偽善的と呼びたい。

- b. **Personnellement**, j'ai fait ce travail. (Molinier 2003, p.364)
個人的には、私はこの仕事をした。

(18a)の *circonlocution* と *périphrase* の意味の違いを述べている記事からの引用では、*per* は *qualifier* と共起している。ここでは、*circonlocution* について話者個人の観点から判断が行われ、「偽善的である」という意見が表明されていると考えられる。また、(18b)の用例について、1名のインフォーマントは *Personnellement, je pense avoir bien fait ce travail*. (個人的には私はこの仕事をよくやったと思っている) というパラフレーズを行うことができると指摘していた。このパラフレーズに基づく「私はこの仕事をした」という内容について、仕事の出来栄や実際に行ったという事実について話者は自信や確証を持っていることが *per* を通じて表されていると考えられることができる。この2例をふまえると、*per* は元来、意見を示しているとは考えにくい動詞が用いられている発話であっても、その発話が意見を示していることを表すマーカーとして機能していると考えられることができる。つまり、*per* は<意見化>のマーカーとしての機能を有している副詞である。

¹⁶<https://www.lefigaro.fr/langue-francaise/figures-de-style-qu-est-ce-qu-une-circonlocution-20210910>

る。しかし、あくまでこれは意見化であって、やはり *per* 自体が意見の意味を含みこんでいるわけではない。

また、*per* と意見動詞が共起していればいつも個人の観点だけが表されるわけではない。例えば、以下の作例では編集長の立場で法案に対する見解が表明されたのちに、一個人としての見解が *per* を通じてあらわされている。ここでの *per* はたしかに *que* 以下の意見を持つ際に依拠した観点を表示しているにとらえることもできる。しかし、その一方で「編集長」という役職から離れた一個人の立場から意見を表明するために *per* がここで使用されているというとらえ方も可能である。このように観点と立場は用例によっては密接に関連しており、意見動詞が用いられているという理由だけで個人的な観点を *per* が示しているにとらえることは急な見方である。述定関係との関わりを中心としながらも、常に前後の文脈とのインタラクションをとらえることが欠かせない。

- (19) En tant que directeur de journal, je suis pour cette proposition de loi. Mais *personnellement*, je pense qu'elle est injuste. (インフォーマントチェックを受けた作例)
編集長として、私はこの法案に賛成している。しかし、個人的には、私はこの法案が不当なものであると考えている。

3. 副詞 *personnellement* の多変性に関する考察

前章では構文上の位置の類型に基づきながら、辞書記述の検討と用例の観察を行い、*per* の様々な用法の基礎的な観察を行った。本章では、こうした観察をふまえた上で、*per* が持つ多変性について議論を行う。以下ではまず、*per* を談話標識論の中で統一的な視点から検討している Paillard (2021) の議論を批判的に考察する。

3.1. Paillard (2021) に対する批判的考察

Paillard (2021) はフランス語における-ment 型の語構成を持つ「談話標識 (*marqueurs discursifs*)」に関する研究書である。Paillard の談話標識論には無論、既存の副詞・談話標識研究に対する批判に基づいた理論的な背景が存在しているが、本稿ではこの点について詳細な検討は行わずに、談話標識としての *per* の記述に早速注目する。この研究において *per* が持つ「意味的同一性 (*identité sémantique*)」は以下のように記述されている (*ibidem*, p.257)。

- (20) *Personnellement* spécifie **p** comme un dire qui n'engage que le locuteur ; concernant la représentation de **Z** le locuteur, en disant **p**, tient à se démarquer d'autres prises de position sur **Z**, explicites ou non dans le contexte gauche. (idem)
per は **p** を話者だけに責任を負わせる発話として明示する；事態 **Z** の表象に関して話者は **p** と述べながら、左方コンテキストで明示されている、あるいは明示されていない事態 **Z** に対する異なるポジション取りから一線を画そうとしている。

この記述を端的に言い換えれば、per は p を話者だけが引き受けるところの発話として提示する、ということになる。このような per の働きにより話者と p の関係が規定され、左方コンテキストで展開されている事態 Z に対する異なる立場の取り方・ポジションの取り方が際立つことになる。この記述において注目に値するのは、左方文脈の問題を取り上げている点と position という概念を使用している点である。文脈に関する問題はこれまでの per に関する先行研究が十分に取り上げてこなかった問題である。実際、Paillard はこの意味的同一性に基つきながら、左方文脈を視野に入れたヴァリエーションの記述を進めている。また、position の概念は本稿における観点と立場の概念を包括しているものとみなすことができる。ただし、これは確かに包括的なタームではあるが、その分、明瞭さという点では問題のある概念であるといえる。

この Paillard の記述は談話標識として特徴づけられる場合の per のみをとらえようとしたものである。たしかに、こうした立論は分析の対象を明確なものにするという点では有益である。ただ、このような立論をする以上、「談話標識」を的確に定義することが必要になる。また、本稿における構成素グループと談話標識としての用法に重なる部分が大きい文頭グループの取り扱いを別個にすることをこの方法論は当然、求めることになる。形式の同一性と多変性という問題をとらえようとした場合には、この方法論は不十分であると考えられる。

3.2. 用例の再検討

では、どのようにして用法を限定する形ではなく、包括的に per が持つ多変性を把握することができるのだろうか。ここで注目に値するのは Paillard (2021) の「異なるポジション取り」という記述である。つまり、この記述に基づけば談話標識としての per は文脈上に見出される何かしらの他的な要素と話者の関係性を問う形式であると捉えることができる。以下ではこうした他的な要素という観点を分析の切り口として、いくつかの用例を再び観察する。なお、以下では 2 章とは異なり、構文上の位置ではなく、意味のレベルで用例を分けながら議論を進める。

まず、思考主体の観点の表示に関わる用例(21)について検討する。この用法では述語の示す思考や行為 (cf. 2.3.) を意見として示す際に、その意見が依拠している観点を per は表していた。

- (21) a. *Personnellement*, je pense qu'il a tort. (4a)
- b. Je serais *personnellement* favorable à la consigne des bouteilles en plastique.¹⁷
私は個人的にプラスチックボトルの保証金に賛成しています。

まず(21a)における per は話者個人の観点を表すと同時に、他者の観点を取り上げていると考えられる。ここでの per は文全体にかかり、述定関係<MOI-penser>が表す思考が立脚している観点を表している。そして、このように per を通じて個人的な観点から思考が行われ、その思考の

¹⁷<https://www.radiofrance.fr/franceinter/jean-jouzel-je-serais-personnellement-favorable-a-la-consigne-des-bouteilles-en-plastique-4423462>

結果として意見が提示されることで、他者の観点に基づく異なる意見 (ex. 彼は間違えていない) が存在する可能性が残されることになる¹⁸。例えば、(21b)のように述語によって favorable / défavorable という賛成論と反対論の存在を容易に読み取れる文脈もある。

そして、観点の用法については左方文脈との関係をとらえることが欠かせない。基本的には、左方文脈において何かしらのテーマがあり、そのテーマについて意見を表明するという流れが存在すると考えられる。ここでは(22)について検討しよう。

(22) « Vous trouvez qu’au jour d’aujourd’hui, c’est vain ?

-Oh ! non, dit Henri. S’il y a des gens pour qui ça garde un sens d’écrire, tant mieux pour eux.

Personnellement, je n’en ai plus envie, c’est tout. » (Les Mandarins)

「あなたは、今日では書くということは無益なことだと思っていらっしゃるの？」

「いいえ、そんなことはありません。もしも書くということがまだ何らかの意味を持っている人がいるなら、その人には結構なことですよ。しかし、ぼく個人としては、もう書きたいという気持はないのです。それだけのことです」 (朝吹訳)

(22)では「書く」という行為が持つ今日的な意味について議論が交わされている状況で per を通じた意見の提示が行われている。そして、per を通じて個人的な観点から話者がこの行為に対してもう願望を持っていないことが提示されている。また、ここでは左方文脈にある Si 節を通じて異なる価値観を有する人物の存在がふまえられている。つまり、ここでは Si 節で取り上げられた他者に対して、話者は異なる意見を有していることが per によってあらわされている。ここでは単に環境が per の機能に合致しているため、この副詞が生起しているのではなく、むしろ、per という形式が存在することによって、話者の願望提示という状況の中で他者の問題が取り上げられていると考えることができる。つまり、あくまで文脈との双方向的なかかわりあいによって意味の構築が行われている。

次に行為主体の立場を表示する場合の用例(23)について検討しよう。この用法で基本的に問題となるのは公私のコントラストである。

(23) a. Le PDG de Tesla, Elon Musk, a affirmé mercredi qu’il avait *personnellement* investi dans le bitcoin et d’autres crypto-monnaies, mais qu’il ne manipulait pas les monnaies numériques.¹⁹

¹⁸ 観点を示していると考えられる以下の例における per について、Guimier (1996, p.156) は「対照的な範列導入の価値 (valeur paradigmatique contrastive)」を持つと述べている。

Personnellement, je trouve dommage qu’on utilise le sport pour véhiculer des messages politiques. (idem).
個人的には、スポーツが政治的なメッセージを発するために利用されることを残念に思います。

¹⁹<https://www.lefigaro.fr/flash-eco/elon-musk-affirme-avoir-personnellement-investi-dans-le-bitcoin-l-ethereum-et-le-dogecoin-20210722>

テスラ社の社長 Elon Mask は水曜日に、彼が個人的にビットコインならびに他の仮想通貨に投資したが、電子通貨を操作していないと断言した。

b. Trump assure qu'il est prêt à investir *personnellement* dans sa campagne.

Washington - "Si c'est nécessaire, je le ferai". Donald Trump s'est dit prêt mardi à mettre la main à la poche si cela s'avérait indispensable dans la dernière ligne droite de sa campagne.²⁰

トランプ氏は、選挙戦に個人的に資金を投入する用意があるという。

ワシントンー「必要ならやる。」ドナルド・トランプは火曜日、選挙戦の最終盤で必要とあらば、ポケットマネーを用いる用意があると述べた。

(23a)では実業家 Elon Musk がビットコインといった仮想通貨に自ら投資したことが述べられている。ここでは *per* は動詞 *investir* を修飾の対象としているが、意味的にはむしろこの述語が示す行為の主体である *il* の肩書を問題にしているといえる。そして、あくまでプライベートな立場で投資を行ったことが記述されている。つまり、「私財をつぎこんだ」ということが述べられている。また、類例として(23b)がある。この例は Donald Trump の選挙活動について報じる記事の冒頭から引用されている。ここでも動詞は *investir* であり、この動詞のあらゆる行為主体である Donald Trump が自らの個人的な資金を選挙活動につぎ込むことが *per* を通じてあらわされている。また、この例では後続する文脈において、*mettre la main à la poche* といういわば *investir personnellement* をパラフレーズした表現が生起しており、この *per* が立場の表示に関わっていることが明確になっている。この2例から明らかなように *per* を通じて公私の立場のコントラストが表れる場合には、述語に関わる行為主体の肩書に関する我々の知識が問題になる。Musk に対しては「実業家」という肩書、Trump については「実業家」「大統領候補」といった肩書を簡単に想起することができる。また、述語に注目しても、例えば(23b)では *dans sa campagne* によって当該の投資という行為が選挙活動に明示的に結び付けられている。このことから、例えば「政党の資金」といったほかの資金の出所を知識によって想定することができるなかで、私費が選挙活動に投入されるという解釈を導き出すことができる。

こうした公私のコントラストが言語形式を通じてよりはっきりと表出されている場合もある。例えば、(24)では *per* に対して *professionnellement, en tant que candidate, en tant que maire de Pontivy* といった表現が並べられているが、これらの表現が表す公的な肩書に対して、*per* は私的な立場を示しているのとらえることができる。

(24) *-Personnellement, professionnellement et en tant que candidate, comment avez-vous vécu cette période de confinement ?*

-Personnellement, j'ai vécu ce confinement comme un temps offert pour me poser, prendre des

²⁰https://www.lexpress.fr/actualites/1/monde/trump-assure-qu-il-est-pret-a-investir-personnellement-dans-sa-campagne_2134301.html

nouvelles de mes proches et faire une partie de ce que j'avais toujours remis au lendemain. En tant que maire de Pontivy, j'ai pris pleinement la mesure de cette crise sanitaire en déclenchant dès le 2 mars 2020 le Plan communal de sauvegarde et en mettant tout en œuvre pour préserver la population, ainsi que les agents de la Ville et de la communauté de communes de ce virus. (=5)

また、*per* の示す立場ということに関して言えば、何らかの明確に言明できる公的な肩書に対する私的な立場がいつもとりあげられるわけではない。(25)の例についてここでは議論する。

- (25) a. Vincent Dath, secrétaire zonal adjoint à Alternative Police / CFDT, confie au Figaro connaître *personnellement* la victime. « Il était père de deux petites filles... Ce soir, il n'est plus là. Ça fait des années qu'on alerte sur la dangerosité de notre métier. On la voit d'autant plus aujourd'hui ». ²¹

Alternative Police / CFDT の地域補佐官である Vincent Dath は Figaro 誌に個人的に犠牲者と交流があったことを打ち明けた「彼は 2 人の小さな娘の父親でした... 今夜、もう彼はここにいないのです。私たちの仕事の危険性についてはもう長いこと指摘されていました。今日では (この事件を受けて) ますますこの危険性を理解できますね。」

- b. Pour être un témoin fidèle, il devait rapporter surtout les actes, les documents et les rumeurs. Mais ce que, *personnellement*, il avait à dire, son attente, ses épreuves, il devait les taire. (La Peste)

誠実な証言者となるために、彼は特に調書、資料、風聞などを報告せねばならなかった。しかし、個人的に彼がいたかったこと、彼の期待とか試練とかいうことは、黙っていなければならなかった。(宮崎訳)

まず、(25a)のように単なるプライベートな関係性が人物の間に存在していることがこの副詞により表される場合がある。これはアヴィニョンで起った警察官殺害事件に関する記事からの引用である。ここで *per* は *connaître* という動詞を修飾している。この動詞が取り上げているのは Dath という人物と犠牲者の間にある関係性である。そして、*per* はこの関係性をプライベートなものとして提示する。つまり、何らかの職業的な関係ではなく、プライベート上で交流関係があったことが表されている。そして、実際に後続する文脈で語られているのは犠牲者の個人的な情報である。また、より文脈を通じて把握される立場が問題となる場合もある。(25b)はカミュの小説 *La Peste* の終盤において、この小説の記録者がリュウ医師であったことが明らかになる場面からの引用である。ここでは、「誠実な証言者」という物語の中における役割が左方文脈において問題となっている。そして、*per* を含む *ce que* 節では彼が個人の立場において言いたかった期待や試練と

²¹<https://www.lefigaro.fr/faits-divers/avignon-un-policier-tue-par-balles-lors-d-une-operation-antidrogue-20210505>

Vous rendons compte de la constitution en cours d'un Comité national français pour relier tous éléments français de résistance, entre eux et avec alliés. Vous demandons entrer *personnellement* dans composition de ce Comité. Tous ici vous considèrent comme devant être le grand chef de la résistance française. Agréez l'expression de notre respect et de notre espérance.

Pour le Comité national français en formation : Général DE GAULLE.

(*Mémoire de guerre t.1 L'appel*)

ド・ゴール將軍から、北アフリカ作戦地区総司令官ノゲス將軍への電報
一九四〇年六月二十四日、ロンドン。

フランスの全抵抗勢力を、お互いに、また同盟国と結合すべく、フランス国民委員会が組織されつつあることをご報告します。この委員会の構成の中にみずから加わってくださるようお願いいたします。当地ではだれもが、貴殿をフランスの抵抗の偉大な指導者となるべき方とみなしています。尊敬と希望の挨拶をお受けください。

生れつつあるフランス国民委員会を代表して。ド・ゴール將軍 (村上・山崎訳)

これは將軍から北アフリカ作戦地区総司令官に送られた電報からの引用であり、ここで將軍は司令官にフランス国民委員会に入ることを要請している。ここで *per* は *entrer* という不定詞の右方に置かれており、意味的にはこの不定詞の表す行為の主体となる *vous* をとりたてている。このように修飾限定を受けた *vous* は「ほかならぬ *vous*」という限定を *per* から受けることになる。つまり、ほかにも候補はいるが、当該の司令官その人が委員会に入ることがここでは求められている。このように他者と比べられている司令官であるが、後続文脈から明らかなように、この人物はフランスの抵抗のために不可欠な人物としてここではとらえられている。このように *per* によって他者との違いが際立たせられ、その上、その人物の重要性が述べられていることで、將軍がこの人物を必要としていることが強調されている。このようなある種の強調効果は *per* と文脈のインタラクションの結果生じている。

また、よりはっきりと文脈上で他者と行為主体の対比構造を見出せる場合もある。以下の(28)は芝居の稽古が行われているくだりから引用されたものである。

- (28) [...] et il avait l'impression qu'on courait à un désastre. « Après tout, une pièce qui réussit ou qui tombe, ce n'est pas si grave », essayait-il de se dire ; seulement voilà, s'il pouvait *personnellement* s'accommoder d'un four, Josette avait besoin d'un succès. (Les Mandarins)
そしてすべてが失敗に向って流れ落ちているような気がした。「一つの芝居が成功しようが失敗に終わろうが、要するに、大したことじゃない」と彼は考えようと試みた。ただ、彼自身は失敗に順応できたとしても、ジョゼットは成功を必要としていた。(朝吹訳)

あまり稽古がうまくいっていないことをふまえて、*pouvoir s'accommoder* という述語の主体である Henri (=il) その人は仮に芝居が失敗に終わっても何とかやっていけるということがここでは述

べられている。ではここで *per* を通じて取り上げられる他者とはだれか。その人物は後続する文脈に現れる *Josette* であると考えられる。つまり、ここでは芝居という共通のテーマについて、かたや必ずしも成功を必要とはしていない *Henri* と、かたや成功を求めている *Josette* が対比の関係にある。この *per* を通じてつくられる対比関係によって、結果的には *per* によってとらえられた人物である *Henri* とは異なり、*Josette* は芝居の失敗ということに適応することはできないということを読み取ることができ、現にその解釈を安定化させる要素が後続文脈に生起している。

最後に行為主体の独自性を表示する用例(29)について検討する。

- (29) a. Max joue très *personnellement* l'étude en mi bémol majeur. (=1b)
b. Max joue trop *personnellement*. (Molinier 2003, p.367)
マックスは過度に個人的にプレーしている。

まず(29a)ではエチュードを演奏する様子が *Max* という人物に独特のものであることが *per* を通じてあらわされている。ではここで問題となっている他者とはどのような主体であるのか。それは、述語の *jouer l'étude en mi bémol majeur* であらわされる行為について我々が有している知識からつくられる「通常の様態でエチュードをひく人々」というクラスであると考えられる。そして、*per* を通じて述語が修飾され、その述語の示す行為を行う主体となる *Max* はこのクラスに属さないものとしてとらえられることになる。ここでは *per* が修飾する述語に関する知識から現実の状況が照らし合わされ、*per* によって様態の記述が行われていると考えられる。また、(29b)はサッカーのような団体競技において *Max* が「個人主義的 (*individualiste*)」であることを *per* は示している (Molinier 2003, p.367)。ここでは述語により表される団体競技について求められる協調性を *Max* が欠いていることが *per* により表されている。つまり、ここでも *per* を通じて、述語から導かれる主体のクラスの外側に行為主体が位置付けられている。

このように *per* の様々な用例を観察すると、常に何らかの他の要素とある主体の関係性が問われていることがわかる。観点を示す場合であれば、思考主体の観点と他者の観点が問題になっていた。述語によっては明確に賛成論と反対論の対比を見出すことができる場合もあるが、常に異なる意見の存在が問題となる。また、この場合は *per* の表す個人的観点で議論を行うテーマを左方文脈においてとらえることが求められる。さらに文脈上で他者の異なる意見が明確に表される場合もある。行為主体の立場を示す場合では、基本的には述語と関係づけられた主体に関する<公>と<私>のコントラストがあらわれていた。そして、述語に関する知識や文脈上の共起表現から複数の立場を想定できる場合が存在する。さらに、明確な公的な肩書を取り上げるというよりは、端的に人間関係がプライベートなものであることやあくまで文脈上で構築される立場が問題となる場合もある。行為主体の当事者性を表す *per* については、その行為に関わりうる他者がいながら、当該の主体がその行為を行うことを表していた。そして、他者との対比の中でとりたてられた主体について、その主体の重要性を問うことができる場合や文脈上で他者が明確に表れる場合が存在する。最後に行為主体の独自性を示す場合では、当該の行為に関して知識に依拠し

ながらつくられるクラスにその主体が含まれていないことが *per* により表され、その逸脱は独自性や個人主義として把握されることになる。

ここまでの議論に基づくと、*per* の多変性を議論するためには〈他者性 (altérité)〉の問題を欠かすことができないといえる。そして、各々の例で問題となる〈他者〉は基本的に主体と述語、およびその述定関係を提示する状況、当該関係に関する知識、そして文脈がインタラクションを起こすなかで構築されるものである。また *per* を通じてあらわれる他者は排斥される存在ではないと考えられる。観点の用法であれば、他者の観点の存在は思考主体の観点によって排除されるわけではなく、むしろ *per* は複数の観点が存在するという議論を行うための適切な状況を作り出す装置であると考えられる。また、立場の用例であれば、何らかの公的な肩書が私的な立場によってなくなるわけではなく、あくまで複数の立場が〈ペルソナ=仮面〉として付け替え可能な状態である点が重要である。また、当事者性を示す場合でも他者はその状況では排除されるにしても、潜在的な行為主体としては存在し続ける。このような潜在性により、当該の主体が述語の示す行為に関わることの重要性が読み取られる。また、行為の独自性を示す場合では、むしろイレギュラーなのはクラスから逸脱した主体であって、ある行為について想定されるクラスがむしろ常に存在していると考えられることができる。

4. まとめと課題

本稿では *per* の多様な用法を観察することを通じて、この副詞が持つ〈多変性〉の問題を考察した。そして、用法の多変性が生じる背景に個々の状況の中で相互的に構築される〈他者性〉の問題が存在することを指摘した。あくまで記述的な態度に徹するために、本稿では *per* の究極的な図式を提案することや、多変性のメカニズムを形式化することは行わなかった。より精緻な分類を行い、意味図式を考察するためには他の副詞にも目を向けることが不可欠となる。副詞は様々な修飾関係を持つ言語装置であり、その多様な関係を形式的に把握するためには、述定関係、その述定関係を提示する発話、そして談話をレベル別に分けて整理・把握するための道具立てが必要となる。この副詞研究の基本的な問題に〈発話〉の観点から取り組むことが今後の最大の課題となる。

最後に、いくつか *per* について残された研究課題を指摘する。

まず、今回の意味に着目した分類ではまだ十分に記述できない用例がいくつかある。ここでは(30)の2例に言及する。

- (30) a. D'ailleurs, pourquoi Stendhal, toujours Stendhal ? Vous trouvez que c'est bien, Stendhal ? Pas moi ! Plus moi ? Le peuple chinois apprécie avant tout la Révolution française et la Commune de Paris. Vous auriez eu plus de chance avec Robespierre, voire avec Jules Vallès. **Personnellement**, je lis maintenant Jules Vallès. Préférable à Stendhal. En un sens, vous me comprenez... Je vous le conseille. (Les Samouraïs)
- それに、なんだって、いつもスタンダールなんですか？あなたはスタンダール

をいいと思いますか？私は思いませんね！中国人民はなによりも、大革命とパリ・コミューンを評価しています。ロベスピエールか、さらにはジュール・ヴァレスだったら、あなたにはもっとチャンスがあったでしょうに。個人的なことを言えば、私はいまジュール・ヴァレスを読んでいます。スタンダールよりも好ましいですよ、ある意味で。私の言うことがおわかりですね……。それをおすすめしますよ。 (西川訳)

- b. Babüsk tient à interpréter des chansons en alsacien. “*Personnellement*, c’est ma langue maternelle”, explique Jean-Sébastien Ineich.²³

Babüsk はアルザス語で歌を演奏することにこだわっている。「個人的に、これは私の母語なのです」と Jean-Sébastien Ineich は説明する。

(30a)はスタンダールを話題にした聞き手に対して、話し手が反論を行っている場面である。ここでの文頭に置かれた *per* は<MOI-lire Jules Vallès>という述定関係全体を限定している。この *per* の解釈にはいくつかの候補が考えられる。まずは単に「ほかの人とはともかく私についていえば」といったテーマの解釈がある。また、「個人的なことを言えば」というように自己のパーソナルな側面にこの行為を位置付けているという立場的な解釈もありうる。また、意見提示としてこの発話をとらえる可能性もある。文脈を見ると、ここでは作家の比較が行われていることが明白である。すると、ここで「私はジュール・ヴァレスを読んでいる」と述べることは自身の作家評の提示を結果的に行っているという解釈がありうる。つまり 2.3.で指摘した *per* の意見化の機能がここではあらわれている可能性がある。実際、後続する文脈ではスタンダールよりもヴァレスのほうが好ましいことが表明されている。また、(30b)の *per* はインフォーマント 1 名によるとパラフレーズの候補として *Moi* (私は) や *Quant à moi* (私については) といったものが考えられる。つまり、単に話のテーマが一人称の<MOI>であって、このテーマ・枠組みに「アルザス語は私の母語である」という関係が位置付けられているという解釈が考えられる。ここでは音楽グループ (Babüsk) のメンバーの中にアルザス語を母語としていない人物が存在することが文脈上明示されており、このような他者の存在が *per* により引き合いに出されていると考えられる。このように実際の用例においては、いまだ本稿の分析では十分に解釈できないものがあり、こうした例についても包括的に記述することが今後求められる。

また本稿で取り上げた<他者性>の概念に関する考察が今後、必要になる。「何かと何かが異なっている」という関係性のあり方としてこの概念をとらえると、この概念は *per* だけに関わるものではなく、一般的な言語研究における問題であるといえる²⁴。そして、究極的な課題として、この他者性という関係性が未分化状態から構築されるという問題を取り上げることが必要になる (cf. 「came」構造 structure en « came », Culioli 2020)。*per* についていえば、観点や立場等において

²³<https://france3-regions.francetvinfo.fr/grand-est/babusck-un-groupe-de-pop-folk-en-alsacien-2127262.html>

²⁴ 例えば、Deschamps (1999), Dufaye (2009), Deschamps et Dufaye (2009) は他者性の概念から英語のモダリティ動詞の発話論的な記述に取り組んでいる。

結果的に見出せる他者性が構築されるあり様を *per* が生起する発話とその発話が位置付けられている談話の中でとらえることが課題となる。

また、しばしば文頭位置の *per* は(31a)のように *Moi personnellement* という形で現れることがある。そして、この構文は「冗語 (*pléonasmе*)」であると批判を受けることが多い。例えば、(31b)は「直ちに廃止すべき 10 の冗語 (*10 pléonasmes à bannir sur-le-champ !*)」という記事からの引用であり、その 1 つとしてこの構文が取り上げられている。

- (31) a. “Le bâtiment peut être prêt mais *moi personnellement*, je ne vois pas comment je vais reprendre”, souffle Brénus Saint Jules, directeur d’une école primaire, dont la maison a été entièrement détruite.²⁵

「建物はなんとか準備できるにしても、私個人は、どうやって立ち直ればよいかわからない。」小学校の校長 Brénus Saint Jules はこうもらす。この人物の家は全壊してしまった。

- b. ● « *Moi personnellement* »

Expression couramment usitée pour donner son avis, elle s’avère redondante. Les termes « moi » et « personnellement » se suffisent à eux-mêmes. Ils désignent tous deux ce qui se rapporte à « soi-même » et à personne d’autre. Évitez donc ce pléonasmе, qui pourrait de plus vous faire passer comme un personnage égocentrique...²⁶

意見を表明するためによく用いられる表現であるが、冗長であることは明らかである。「私」と「個人的に」はそれ自体で充足している。この 2 つとも「自分自身」と他の個人に関わることを示している。したがって、この冗語法を避けてください。この冗語法はあなたを自己中心的な人物として名を知られる存在にする恐れがあります。

ただ、こうした規範的な見解が *per* の持つ意味図式を記述する上で参考になる可能性がある。「冗語」という概念のとり方にもよるが、*Moi personnellement* が冗語であるとする、*per* に何かしらの一人称の要素が含まれているという直感が存在する可能性が浮かび上がる。また、興味深いことに文法書 *La Grande Grammaire du français* (2021, p.1937) では *per* は *maintenant* と並び副詞におけるダイクシス表現の例として提示されていた。この見解をふまえると、発話状況に存在する話者が *per* により指示されている可能性がある。

こうした、一人称との関係は特に離接詞用法の *per* の議論において十分に検討する必要がある。Molinier (2003, p.361-363) は文体離接詞としての *per* は後続する文に一人称の形態を含むことを求めるという制約を指摘している。そして、自由間接話法の場合ではこの制約が外れて、

²⁵<https://www.laprovence.com/article/france-monde/6479711/apres-le-seisme-haiti-face-au-defi-de-la-rentree-scolaire.html>

²⁶<https://www.lefigaro.fr/langue-francaise/expressions-francaises/2017/09/07/37003-20170907ARTFIG00002-10-pleonasmes-a-bannir-sur-le-champ.php>

Personnellement, il était inquiet. といった文が許容されることが指摘されている (idem)。このような見解をふまえると、ただ単に一人称の要素が *per* の意味図式に含まれていると考えることはできない。例えば、ここで「発話主体指向性 (logophoricity)」(cf. Hagège 1974, Zribi-Hertz 1996, Hirose 2018, etc.) といった概念を *per* に関係づけることなどが考えられるが、この点についてはさらなる観察と理論的な考察が求められる²⁷。

最後に副詞 *individuellement* と *per* の比較という問題に触れる。先行研究では *per* はもっぱらに *en personne* や *lui-même* と比較されており、*individuellement* と比較したものは管見の限りでは存在しない。しかし、辞書の記述においてこの副詞は *per* の同義語として提示されることがある。例えば、*Larousse* のオンライン辞書²⁸では *individuellement* の項目において *per* との同義関係が指摘されている。しかし、インフォーマントに *per* と *individuellement* を置き換えた例(32)を提示するとこの辞書記述に問題があることがわかる。

- (32) a. Je pense *personnellement* / ?? *individuellement* qu'il a tort. (4aに基づく作例)
私は個人的に／個として彼が間違っていると思う。
- b. Pris ? *personnellement* / *individuellement*, ils ne sont pas si méchants.
(『ロワイヤル仏和中辞典』に基づく作例)
個人的に／一人一人をとってみれば、彼らはそれほど意地悪ではない。
- c. Le professeur a reçu ses élèves *personnellement* / *individuellement*.
(『ロワイヤル仏和中辞典』に基づく作例)
先生は生徒たちと個人的に／一人ずつ面談した。

例えば、*per* と生起しやすいと考えられる *je pense que* の構文(32a)で置き換えをすることはできない。一方、*individuellement* がもともと使われていた(32b)では *per* への置き換えが認可されにくい。ここでの *individuellement* は過去分詞 *pris* を修飾することで *ils* が指示する人々の1人1人をとらえる意味を持っている。また、置き換えができて意味に違いがみられる場合もある。例えば、もともと *individuellement* が使われている(32c)では、*per* に置き換えても文は容認される。ただ、*individuellement* が直接目的語の *ses élèves* の1人1人をとらえる機能を持つ一方で、*per* は主語の *le professeur* をとりたてる。そして、*lui-même* (自ら) に近い意味を持っていると考えられる。また、インフォーマントによれば、*per* の場合にはこの面談が親しさを伴った形でなされたという意味が出てくる。この観察から、*individuellement* はあくまで量的にあるクラスの構成員の1つ1つをとらえるのに対して、*per* の場合には主体と述語の関係性を質的に限定する側面が強いことが示唆される。

この観察は名詞 *individu* / *personne* の議論に接続可能であると考えられる。Lebaud (2014, p.29-30) は発話理論の観点からこの2つの形式を比較して、量・存在 (QNT) および質 (QLT) のパラメー

²⁷ この点については、金子真氏との議論が有益であった。記して感謝申し上げます。

²⁸ <https://www.larousse.fr/dictionnaires/francais/individuellement/42667>

タを用いて *individu* に QNT / ()、*personne* に QNT / QLT の表示を与えている。つまり、前者では「厳密に状況的な限定 (*délimitation strictement situationnelle*)」が問題となる (*idem*)。あくまで現状では思案的なものであるが、将来的な語彙研究と副詞研究の接続は十分に考えられることであり、*per* の多変性を整理した形で議論するためには諸形式との比較研究を行うことが欠かせない。

参考文献

- 青井明 (2005) : 「フランス語副詞分類の試み」『アジア文化研究』 (国際基督教大学) 31, pp.13-26.
- 谷口千賀子 (1999) : 「フランス語副詞の研究の流れとその問題点」『人文論究』 (関西学院大学) 48-4, pp.145-154.
- Abeilleé, A. et D. Godard (dir) (2021) : *La Grande Grammaire du français*, Actes Sud.
- Borillo, A. (1976) : « Les adverbess et la modalisation de l'assertion », *Langue française*, 30, pp.74-89.
- Borillo, A. (2004) : « Les « adverbess d'opinion forte » selon moi, à mes yeux, à mon avis,... : point de vue subjectif et effet d'atténuation », *Langue française*, 142, pp.31-40.
- Culioli, A. (2020) : « La formalisation en linguistique », *Pour une linguistique de l'énonciation*, t.2, Lambert-Lucas, pp.17-29.
- Deschamps, A. (1999) : « Essai de formalisation du système modal de l'anglais », Deschamps, A. et J. Guillemin-Flescher (dir) *Les opérations de détermination : Quantification / Qualification*, Ophrys, pp.269-285.
- Deschamps, A. et L. Dufaye (2009) : « For a topological representation of the modal system of English », Salkie, R. et al. (éds) *Modality in English : Theory and Description*, Mouton de Gruyter, pp.123-143.
- Ducrot, O. (1980) : « *je trouve que* », Ducrot, O. et al., *Les mots du discours*, Minuit, pp.57-92.
- Dufaye, L. (2009) : *Théorie des Opérations Énonciatives et modélisation*, Ophrys.
- Gosselin, L. (2015) : « L'expression de l'opinion personnelle « Je crois / pense / trouve / considère / estime que p » », *L'Information grammaticale*, 144, pp.34-40.
- Guimier, C. (1996) : *Les adverbess du français : le cas des adverbess en -ment*, Ophrys.
- Hagège, C. (1974) : « Les pronoms logophoriques », *Bulletin de la société de linguistique de Paris*, 69, pp.287-310.
- Hermoso, A. (2009) : « *Franchement* et *personnellement* : deux attitudes énonciatives, deux moments de l'énonciation », *Langue française*, 161, p.23-38.
- Hirose, Y. (2018) : « Logophoricity, Viewpoint, and Reflexivity », Hasegawa, Y. (ed) *The Cambridge Handbook of Japanese Linguistics*, Cambridge University Press, pp.379-403.
- Lebaud, D. (2014) : « Individu, personne, foule, gens : de la désignation à la signification », *Inter Faculty*, 5, pp.23-47.
- Molinier, C. et F. Levrier. (2000) : *Grammaire des adverbess : Description des formes en -ment*, Droz.
- Molinier, C. (1990) : « Une classification des adverbess en -ment », *Langue française*, 88, pp.28-40.
- Molinier, C. (2003) : « *Personnellement*. Un marqueur de singularité », Combettes, B. et al. (éds), *Ordre et distinction dans la langue et le discours*, Champion, pp.357-371.
- Molinier, C. (2009) : « Les Adverbess d'énonciation. Comment les définir et les sous-classifier ? », *Langue française*, 161, pp.9-21.

- Mørdrup, O. (1976) : *Une analyse non-transformationnelle des adverbes en -ment*, Akademisk Forlag.
- Nølke, H. (1993) : *Le regard du locuteur : Pour une linguistique des traces énonciatives*, Kimé.
- Paillard, D. (2021) : *Grammaire discursive du français : Étude des marqueurs discursifs en -ment*, Peter Lang.
- Schlyter, S. (1977) : *La place des adverbes en -ment en français*, Thèse, University of Konstanz.
- Tuchais, S. (2012) : « Les verbes d'opinion et la variabilité des jugements : le cas de *je considère que p* et *j'estime que p* », *Bulletin d'Etudes de Linguistique Française*, 46, pp.35-50.
- Zribi-Hertz, A. (1996) : *L'anaphore et les pronoms : Une introduction à la grammaire générative*, Presses Universitaires du Septentrion.

辞書

- 『ロワイヤル仏和中辞典』第2版, 旺文社.
- Larousse <https://www.larousse.fr/>
- Trésor de la Langue Française informatisé <http://atilf.atilf.fr/>

引用した作品と翻訳

- Albert Camus (1947) : *La Peste*, Gallimard.
- 『ペスト』宮崎嶺雄訳, 新潮社.
- Charles de Gaulle (1954) : *Mémoires de guerre : t. 1 : L'Appel (1940-1942)*, Plon.
- 『ドゴール大戦回顧録III 呼びかけ 1940-1942』村上光彦・山崎庸一郎訳, みすず書房.
- 『ドゴール大戦回顧録IV 呼びかけ 1940-1942』村上光彦・山崎庸一郎訳, みすず書房.
- Simone de Beauvoir (1954) : *Les Mandarins*, Gallimard.
- 『現代世界文学全集 45 レ・マンダランI』朝吹三吉訳, 新潮社.
- 『現代世界文学全集 46 レ・マンダランII』朝吹三吉訳, 新潮社.
- Julia Kristeva (1990) : *Les Samouraïs*, Fayard.
- 『サムライたち』西川直子訳, 筑摩書房.

(みやこし しゅん / 言語学サブプログラム博士前期課程1年)